

ブロックプラス、グリコ、アーモンドピークなどのCMが好評だった。

〈報道活動部門〉 丹羽委員長

・10月22日にギャラクシー賞上期の選考会を開催し、入賞候補作品を決定した。報道活動部門は、応募数は少なくとも質の高いものの参加を望みたい。今回の入賞3活動は、いずれも継続力、持続力が際立っていた。

・先月の理事会で議論された報道活動部門への応募数の件について丹羽委員長は、下期に向けてテコ入れするとともに、デジタル技術を使った活動など、対象の幅を広げたいとの考えを述べた。

◇企画事業委員会 川喜田委員長

・11月1日に委員会を開催し、次回開催のセミナーについて話し合った。12月5日の委員会で引き続き検討する。

◇広報委員会 滝野理事

・11月10～26日に「Gメンバー」アンケートを実施し、39名から回答があった。結果から、「Gメンバー」の7割を女性が占め、年齢は50歳代が多いことがわかった。また、好きなジャンルとしてドラマの次がドキュメンタリーであることなど、Gメン

バーの嗜好について発見があった。

2. その他

①第55回ギャラクシー賞記念賞について

・賞の名称は「ギャラクシー賞55周年記念賞」に決定。

・賞の対象は長く放送界に貢献した、番組・人・組織とする。また、推薦枠は1つとする。

②日本映像事業協会ヤングクリエイターを励ます賞後援の件
後援を承認。

次回の理事会

12月20日(水)

1月31日(水)

【出席】音好宏、橋本隆、藤久ミネ、

川喜田尚、丹羽美之、水島宏明、稗

田政憲、出田幸彦、滝野俊一、坂本衛

桜井聖子、嶋田親一、鈴木嘉一、中

島好登



◆放懸SNS発信中◆



フェイスブック
アカウント名「放送批評懇談会」



インスタグラム
アカウント名「houkon.jp」



ツイッター
アカウント名
「マイベストTV君 (@mybesttv)」



フォロー、「いいね」👍をお願いします!

会議記録

〔11月〕……………

1日 企画事業委員会
13日 出版編集委員会
17日 (選奨)CM定例部会
27日 (選奨)ラジオ定例部会
29日 (選奨)テレビ月評会
30日 理事会

ほうこん

題字・清水英夫

GALAC・1月号・付録
2018年1月6日発行(毎月1回6日発行)
昭和43年3月8日第三種郵便物許可
〒160-0022
東京都新宿区新宿5-10-14 中村ビル2F
NPO法人放送批評懇談会
TEL(03)5379-5521/FAX(03)5379-5510
ホームページ <http://www.houkon.jp/>
Eメール kondankai@houkon.jp
編集・音 好宏

第55回ギャラクシー賞上期 各部門の選考終了

11月理事会報告

2017年11月30日、11月理事会が開催された。

1. 委員会活動報告

◇出版編集委員会 水島委員長

・11月13日に委員会を開催した。

・2月号は特集「変わる!?選挙報道」として、総選挙報道を振り返る。

・3月号はアニメ番組を特集する。大人アニメの現象ともいえる今日の視点を兼ねてテレビアニメの現状を探り、ネット配信の台頭にも迫る。

・12月号の表紙が関ジャニ∞村上信五さんであることから増刷して対応したが、多め残部を抱えてしまったため、大学などへの贈呈を検討。理事会では、ジャパンエフエムネットワークやコミュニティFM協会、NNN事務局や民教協

などへ配布の提案が出た。

◇選奨事業委員会

〈テレビ部門〉 出田委員長

・10月29日にギャラクシー賞上期の選考会を行い、7本の入賞作品を決定した。ドキュメンタリー5本、ドラマ1本、バラエティ1本となり、ドキュメンタリーが健闘した。ドラマが少なかったが下期に期待したい。(詳細は「GALAC」1月号に掲載しているのので省略する。他委員会も同様。)

・10月29日に月評会を開催した。

月間賞には、NHKスペシャルシリーズ人体 神秘の巨大ネットワーク 第1集「腎臓」が寿命を決める(NHK)、NNNドキュメント17「放射能とトモダチ作戦」(日本テレビ)、ハイパーハードボイルドグルメリポート(テレビ東

京)、めっちゃ×2イケてるッ!「ダシシングヒーロー」でゴイゴイスーパーシャル(フジテレビ)の4本を選んだ。

〈ラジオ委員会〉 橋本委員長

・10月23日と26日にギャラクシー賞上期の選考会を開催し、入賞候補作品を決定した。応募数全体は大きく伸びたが、ドラマに限っては応募が少なくさびしい結果だった。FMの作品に聴きごたえを感じた。

・11月27日に定例会を開催し、FM802とFM愛媛の若者向け番組を聴取した。

〈CM部門〉 稗田委員長

・10月30日にギャラクシー賞上期の選考会を開催し、入賞候補作品を決定した。13本のうち、テレビCMが9本、ラジオCMが4本となった。ラジオCMの初めての審査となった。ラジオとテレビを同じ土俵で審査したが、ラジオにはテレビに勝るとも劣らない高い水準の作品が多く、十分渡り合った。11月17日に定例会を開催し、31本のCMを視聴した。資生堂 表情プロジェクト、タケダ ベンザ